

2010年・記録会は 6月20日(日)HLG(公園用)、PLGはともに松伏公園です!

2010年・記録会は 7月18日(日)HLG(公園用)、PLGはともに松伏公園です

関東での競技会が激減しての今年、平城京大会も遷都1300年祭の為中止で、夏前から早々とのんびりムードです。ヒコーキ屋は夏期はいつも飛ばすところを探して四苦八苦するのですが、今年は吉見公園があるのでHLGをやるにはストレスは少ない。ランチャーズは過去30年来、月例競技会を続けているし、会報もともかく継続しているので、今後当分の間は特別何かするつもりはありません。

しかし、何か模型ヒコーキの普及の役に立ちたいとは思ってます……。

このところ1年中なにも競技会をやらないクラブが増えますが、今年あたりから何か大会を企画して楽しかった昔に戻って欲しいのですね。

**記録会報告  
お知らせ**

10/4月記録会HLG/PLG、  
新潟夏期合宿のご案内  
YSF競技会案内

10/5月記録会報告  
GpF競技会案内

**FFサロン**

デンキ嫌い老人の機械タイマー  
デンキドリ製作・4

仁木機の使い方

**雑談天国  
編集後記**

不思議な国のアリス? 平尾

ヒコーキ読本あれこれ・片岡裕行

## 2010年4月記録会の報告(HLG/CLG)

### 4月HLG記録会報告

平尾……

4月になって少し暖かくなり、この日は久しぶりに風もおさまってコンディションよし、参加者も11名と良好。風がないのでかえって発航場所に迷って、結局は北側に陣取った。但し、サーマルは甘くはなく、1,2ラウンドは4/22投と苦戦。しかし徐々に調子を上げて3,4回は7/22投、がここまでで、終わってみると5マックスは3人のみ。この日は野球投げが平岩、梅津の2選手とまだまだ頑張っているが……。記録を見ると5位と6位のタイム差は4.2秒と大きい、この辺り、振り投げの完成度と野球投げの性能差と見たがどうか。大型振り投げ競技操るのは野中、平尾、下田、斉藤パパ、吉田と5人がいるが、成績を見ると投げの完成度で差が出ている。小型機で頑張るのは斉藤浩、稲葉の2選手だが、圧倒的な高度で見ているだけで楽しめる。

さて、競技の方は前半で3マックス以上を出した選手(野中、平尾、下田の3選手)が必ずしも残るわけではなく、下田選手が後半手を抜いて脱落、斉藤浩選手が追い込んで残った。結局は斉藤浩、野中、平尾の3選手による夜フライオフになったが、情けないことに年寄りはこちらまで疲労したのが、あっさりと浩にやられた。イカンイカン。それにしても大型機の性能は素晴らしい物がある。

三侯選手が元気な姿?を疲労(披露の間違い……)した。若い?だけに回復が早いよう。見ているとまだ、少し身体のバランスが悪いようだが、今後はくれぐれも無理をしないように飛ばして欲しい。

梅津選手、今回は野球投げで出ていたが、盛んに振り投げを練習中で完成間近の感じ。めずらしく吉野選手も来た。練習投げはしていたが、本番には不参加は寂しい。

今回めずらしく見学者が見えた。しかも東京は芝学園の高校生(残念ながらセーラー服ではないよ)2年生の西田君、まだピカピカです。部活の一環としての調査見学のようで、熱心にメモを採ったり写真を撮ってました。「航空工学なんか狙んじゅないよ」と言ったら、「受ける予定」とか。

またまた日本に不幸な子が……。頑張って10年後でもいいからヒコーキに帰ってこい!!

4月HLG記録 4月18日吉見公園、晴、3～5度、北風1～3m、60秒MAX 5 / 10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	斉藤 浩	58	50	42	60	60	60	40	60	60		300	80		380
2	野中正治	60	59	60	40	60	57	60	60			300	44/35		344
3	平尾寿康	60	60	60	05	60	41	43	57	37	60	300	42/37		342
4	稲葉 元	33	29	60	60	52	29	33	54	60	60	294			294
5	下田多門	51	60	60	50	60	32	22				281			281
6	斉藤勝夫	27	38	40	51	54	50	10	30	10	43	238			238
7	平岩 保	35	32	37	38	28	21	60	46	50	12	231			231
7	吉田利徳	05	47	33	60	40	46	06	38	54	34	231			231
9	相沢泰男	30	21	28	27	44	25	45	24	17	09	174			174
10	三俣 豊	23	23	27	20	40	28	29	07			157			157
11	梅津和則	24	19	19	27	26	31	36	21	28		143			143

4月PLG記録会報告

河田……

競技開始前のミーティングでMAX、タイムを決めるに当り意外にも「45秒でやろう」の声があがり、周りの人も納得した様子に嬉しく驚きました。今日は荒天ではないように思えましたが、急に失速してダイブするCLGが多くありました。ノーズが短く、テールの長い石井先生のCLGを真似して姿勢がスバク回復するモデルを製作してみませんか。今日はバンバンサーマルが出て池ポチャ、視界没が多数ありました。戦える予備機の数成績に現れたのでしょうか。(以上河田)

最近HLGとPLGの記録会の場所が異なるので、さっぱり様子が解りません。但し、今回は全体のレベルが高く激戦のようで、狭いストレスのかかる場所での好成績は讃えられるべきでしょう。松伏の池は野鳥の会の連中がうるさいようですから、池ポチャはイヤですね。松伏の良いところは駐車場が無料なのと広いところですかね。トイレも綺麗だし、それにまだ樹木が小振りて回収が楽なこと、しかし、いずれ樹木が成長すると厄介なことになりますか……。

4月PLG記録 4月18日松伏公園、晴、10度、北風0～3m、45秒MAX 5 / 10投

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	小計	F1	F2	総計
1	河田 健	45	34	45	45	45	45					225	90,	28/51	366
2	原 国光	45	45	45	41	45	45					225	90,	37/30	352
3	吉本凌一	21	45	45	45	33	45	45				225	40/58		283
4	加藤紀一郎	42	45	41	45	45	43	45	34	45		225	49/38		274
5	斉藤竹彦	38	45	45	41	45	21	40	45	45		225	30/15		255
6	林 三郎	45	36	22	41	45	39	14	44	30	45	220			220
7	工藤陽久	05	14	39	45	32	06	45	45	33	45	219			219
8	中野志郎	37	34	45	22	30	28	45	32	30	45	206			206

2010年5記録会の結果(HLG / CLG)

5月HLG記録会報告

日本最高の季節、5月の吉見公園は風もなく最高のヒコーキ日和、風向定まらず発航地点も久しぶりに南側です。こちら側は電柱が無いので投げやすい。朝8時から気温は23度と暖かい。会場の野原はしだいに草深くなって、腰まであり歩くのに疲れる。ついでこの草深さは機体探しが大変。

特に小型機(60cmクラス)は落下地点の目標をしっかりと定めないと、見つからずウロウロすることになる。これからの夏が心配だ。参加者も久しぶりに井村、池田の両選手も揃ってこの日は野球投げが池田、平岩、星野の3選手と久しぶりに活気がありました。やはり野球投げはリイイものですね。

競技の方は、まず斉藤浩選手が連続5マックスで飛び出した。続いて前半4マックスの稲葉、野中の2選手が続いて、前半3マックスに平岩、下田の両選手とこれで5人もいるので、この日は5人以上

のフライオフを予想した。が、残念ながら残ったのは野中、斉藤浩、稲葉、吉田の4人とどまった。

4人のフライオフは2分マックス勝負となり稲葉選手1人のみ通過で優勝、2位は100秒を出した斉藤浩選手、3位は95秒の野中正治選手、4位は今後が恐ろしい吉田選手となった。5位は296秒の下田多門選手、6位は295秒の平尾寿康選手、7位293秒の相沢泰夫選手と小差で続いた。

この日、2、3気がついた点を…。まず相沢怪鳥、振り投げが決まってきて高度を取りだし、もうじきフライオフに残りそう。次いで今回久しぶりにフライオフに残った吉田選手も振り投げ完成です。今後は野中、稲葉、斉藤(浩)、下田の各選手+相沢、吉田の2選手が加わって毎回5人以上の選手によるフライオフが行われるのではと嬉しい悲鳴…ヒーとなりそうですか。

久しぶりに顔を出した井村選手は計時に専念で、少し寂しかった。また、めずらしく岡田さんがヒコーキを全く持たずに邪魔をしに来た。まだまだヒコーキには未練があるようだ。それと病み上がりの三俣選手も好調、しかし、こちらはまだ心配がのこる。

野球投げでは池田選手が好調、と言うより復活かな。星野選手も頑張っていたが、こちらはこれまで余り投げていなかった感じ、絶望的なのは野球投げの平岩選手、ヒコーキは悪いし、投げは決まらないし、しかし、この日3マックスの273秒を出して好成績、どこがどう狂ったのかな。久保選手、一皮むけた感じでこれまでより高度が上がった。斉藤パパはやたらと大型の機体を投げては、周りの恐怖巻き起こしていた。野中選手が競技終了後、150g・150cmスパン機投げていたが、ここまで大きいと取得高度と滑空のバランスから見て有利とは思えなかったが、ドウカ。

#### 5月HLG記録 5月16日吉見公園、晴、21度、0~3m、60秒MAX 5/10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	稲葉 元	60	60	60	60	40	46	47	60			300	120		420
2	斉藤 浩	60	60	60	60	60						300	100		400
3	野中正治	60	60	60	41	60	48	49	60			303	95		395
4	吉田利徳	09	60	59	39	60	12	12	60	60	60	300	49		349
5	下田多門	35	33	60	60	60	31	24	60	48	56	296			296
6	平尾寿康	55	60	43	60	47	27	40	60	60	22	295			295
7	相沢泰夫	60	60	35	34	37	32	34	60	53	60	273			273
7	久保晃英	60	00	34	24	07	45	60	48	25	60	273			273
7	平岩 保	14	45	60	60	48	28	06	23	60	28	273			273
10	三俣 豊	51	25	39	36	60	29	42	29	60	55	268			268
11	池田 昇	58	60	52	47	35	36	04	32	32	34	253			253
12	斉藤勝夫	30	37	59	29	54	13	42	45	48	33	245			245
13	星野 聡	12	04	21	48	28	29	13	40	52	34	203			203

#### 5月PLG記録会報告

河田……

今日は晴、微風のPLG日和かと思われたが、乱気流に見舞われて3~5位の方は4maxであとひとつmax.が出ない、その上3機が視界没の方がいました。一方PLG競技が初めての高校2年生西田さんは9射で5max全機生還。屋外競技用の機体は滑空性能(主に翼面荷重)とスバヤイ姿勢回復力(?)のバランスが重要ではないかと思えます。皆さん試作して答えを出しましょう。(以上河田)

高校生の西田君、前回のHLG見学ではヒコーキを全く投げられずアキマヘンでしたが、自力ではないPLGの好成績は素晴らしい。これで少しはヒコーキの面白さが身に染み込むとイイのだが。休眠期間はおおよそ15年のあと、私も子供が出来て30才過ぎてから、ようやくヒコーキに復帰しました。

それ以来思い出したヒコーキが辞められず、家族共々苦しんでいます。

#### 5月PLG記録 5月16日松伏公園、晴、23度、風0~3m、45秒MAX 5/10投

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	小計	F1	F2	総計
1	河田 健	35	45	44	45	45	45	45				225	30/90		315
2	西田雄亮	28	31	45	45	28	35	45	45	45		225	30/41		266

3	工藤陽久	34	11	32	45	45	45	34	42	45	40	222	222
3	吉本凌一	34	29	32	45	45	45	34	42	45	40	222	222
5	原 国光	45	40	39	45	34	45	33	42	22		217	217
6	勝山 彊	30	30	21	24	37	24	45	06	05	45	187	187
7	中野志郎	30	41	10	25	30						136	136

## お知らせ

### 2010年新潟夏期合宿のご案内 (案)

- 開催日時 2010年7月31日(土)、8月1日(日)、31日昼12時から1日午後3時頃まで  
 開催場所 新潟県阿賀野市阿賀野テクノタウン(飛行場は1km平方)  
 集合場所 同上 風の丘公園  
 宿泊場所 新潟県阿賀野市保田6075-3 やすらぎ(テクノタウンまで2分)  
 電話0250-68-1555 駐車場あり。  
 参加費用 9,000円、宿泊日の夕食を含む(アルコールと朝食は別途)、  
 参加費は当日徴収します。  
 申し込み <http://www.yippee.ne.jp/launchers/event/event.html> からどうぞ。  
 交通案内 東京からは関越自動車道、又は東北、常磐自動車道経由で磐越自動車道で2つ目の安田ICで降りて、阿賀野市方向に進んで15分程度の位置です。  
 行事等 競技等はありません。新潟在住の模型飛行機愛好者(Uコン、ラジコン他)と全国の飛ばす場所に恵まれない方々との親睦を兼ねて、それぞれ好き勝手な模型飛行機を飛ばしましょう。希望する企画があれば、ご提案下さい。  
 申込期限 2009年7月18日頃まで

### 第41回GpF競技会案内

- 日 時: 2010年7月25日 競技開始8時半~11.00、 予備日8月1日  
 場 所: 武蔵野中央公園(通称グリーンパーク)  
 種 目: ライトプレーンA(ゴム5g以下、空転ペラ)、  
 R-30(全長全巾共300cm以下、脚付)  
 スケール、その他3名以上で競技成立とする。  
 参加費: 500円(中学生以下は無料)

### 第69回YSF競技会案内

- 日 時: 2010年8月8日 受付:7時30分、競技開始8時  
 場 所: 武蔵野中央公園(通称グリーンパーク)  
 種 目: 危険のないFFなら何でも可、DTヒューズの脱落防止必須。  
 競技方法: 3種目程度に振り分けて、必要によりハンデを付けます。  
 参加費: 500円  
 計時その他 競技運営には参加者各位のご協力をお願い致します。なお、賞品はたっぷり準備するが、差し入れ歓迎。参加者全員に賞品をお渡しますのご期待ください。

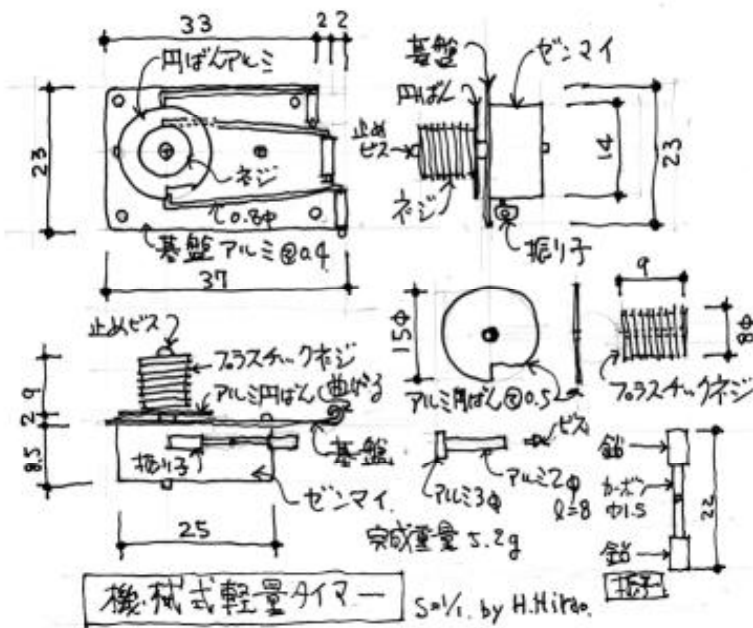
## FF文化サロン

### デンキ嫌いなボケ老人の為の機械式タイマー製作法

……平尾

FF模型飛行機の世界も最近はデンキの嵐が吹き荒れ、機械式は古いと言われています。しかし、FFでは長らく機械のお世話になり、今更デンキ電気とは言いがたく、古いと言われそうですが機械

式タイマーの製作の発表です。今回の発表の機械式タイマーは軽量(重量5.2g)のF1G用3動作のものです。デサは0~5分まで、VIS用は1~5秒、オートラダー用は20~30秒で動作させるように想定しています、デサの動作用にプラスチックネジを使用、VISとオートラダー用は1枚のアルミ円盤で



2本のピンの位置を変えて2動作させるものです。材料は出来るだけ簡単に

入手出来る様に大部分は100円ショップ(ダイソー等)で買える物を使っています。ものは考えようで、極細の手もみドリルやバラすと極細のネジが取れる時計やメガネ等も100円ショップで売ってますので、バラしてビスや様々なパーツをとり本体は捨てます。

### 1. 機械式タイマーの材料と予備加工

#### 機械式タイマー用のゼンマイ

推薦は(写真参照)100円ショップの歩く動物玩具(泳ぐ、跳ねるは不可)のゼンマイが使えます。これを選択した理由は大き過ぎず小さすぎず、重量3g程度で長時間(7回転する)動くからです。

ゼンマイが小さすぎると力が弱く、強力なものは大きくて重い。この品、購入した後外枠を丁寧に外しゼンマイを取り出します。そしていくつか製品をテストをして、ゼンマイが解け終わるまで止まらないものを選びます。ゼンマイのシャフトは1.5 が一般的です。

プラスチック・ボルト 8 ~ (デサ用ネジ)

一般の日曜大工点では入手不可(秋葉原にある)。インターネットでは日本ケミカルスクルーの物は8 首下25mmで1本が363円です。送料と代引手数料が1,050円かかるが近所では手に入らないので、そこを考えて発注してください。まずボルトの長さを1/2(7山程度)に切断し、研磨してからセンターに1.5 の穴を開ける。それにはボルトを万力で挟んで正確にボルトセンターに印をつける。そして万力で挟んだボルトが垂直なのを確認し、ボール盤等で慎重に穴を開ける。多少穴がセンターからはずれても動作に支障はない。



様々なプラスチックネジ



加工済みのパーツ

多少穴がセンターからはずれても動作に支障はない。



内径1.5～2.0mmのアルミパイプ(デサ用ネジと円盤取付用の軸) ライトプレーン用のニューム管でも可。ユニディー等で使える物がある場合はそれを使う。径が合わない場合は手もみドリルで穴を広げ、径が大きすぎる場合はシャフトに釣り糸等を巻き調整する。LP用のニューム管を使う場合は、シャフトが広がるので、外周にケーブラーや釣り糸を巻く事。

アルミ板・厚0.4～0.5mm(基盤とVISとオートラダー用円盤)、ユニディー等で購入。図面の大きさ(タイマー取付用板と回転円盤用)に切断し成型研磨する。その後、位置をキチンと決めてから穴を開ける。



基盤と円盤 + ネジ部分

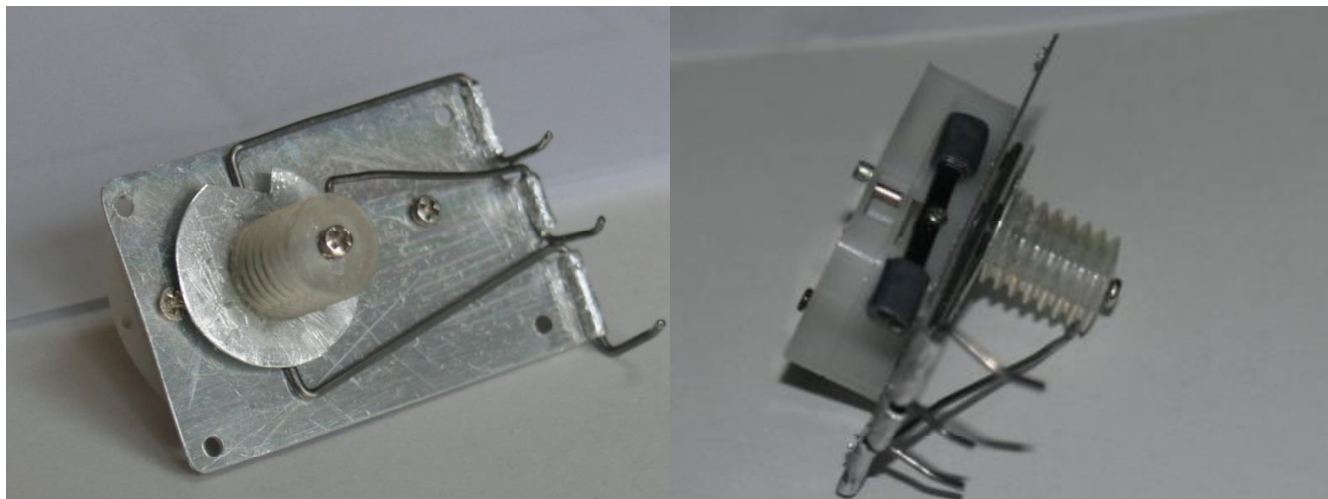
## 2. 機械式タイマーの製作

ピアノ線・0.8 (動作用ピン)、ユニディー等で購入する。タイマーの動作ピンとして使用する。

1.0 ・ボルト、ビス、ダイソー等で100円の時計や眼鏡等ビスが付いている物を探して購入し、ビスを外し本体は捨てる。ビスのみ買うと高いから要注意。

手もみドリル・0.8、1.0、1.5の手もみドリルをダイソーで売っています。但し、0.8はよく折れるので、若干多めに購入する。

カーボン棒(ゼンマイの振り子用) 厚0.8以上、巾1mm程度の物。金属でも可  
振り子用の重り 鉛板厚0.5mm程度の薄板。  
釣り道具屋にある。



完成した機械式タイマーの正面と側面

ゼンマイの振り子部分に手もみドリルで0.8の穴を開けます。その穴に1.0のボルトを立てて重りを取り付け回転を落とす。目標として1回転60秒前後になるように板鉛を増減して調整します。回転がこの近辺だと、デサとVISの両方の動作に使えます。回転が余りに早いとデサの時間が短くなるし、余りに遅いと秒以下のVISの調整が出来ません。振り子に穴を開ける時にゼンマイの中にゴミを落とす回転しなくなるので要注意。振り子の調整が終わったら、ゼンマイをフル巻きしキチンとほどける事を確認する。次にゼンマイを加工済みの基盤に取り付けるが、ゼンマイの回転方向を確認してプラスチックネジがほどける方向に基盤と円盤を取り付ける。これが逆の時はゼンマイのシャフトを抜いて表裏を逆にする。シャフトを抜く時、付いているシャフトに1.5のピアノ線を当てて押し出し置換する。基盤にビス止めする時はゼンマイの取り付け穴に合わせ0.8の手もみドリルで穴を開けビス止めする。その後、シャフトの長さを調整し、内径1.5～2の円盤付きアルミパイプを差し込む。内径2のアルミパイプの場合はガタがあるのでシャフトにケーブラーの糸を巻いて調整する。

これで円盤付きアルミパイプは固定される。しかし、デサ用のプラスチックネジ部分は時間調整のために可動にしたいので、アルミパイプをネジ部分より僅かに短めに切断して、頭にネジを打ち込んでプラスチックネジ部分を固定する。この辺りは細かく調整を要する。ここで再度ゼンマイがスムーズ

に動く事を確認する。次は基盤に3本の0.8 動作ピンを取り付ける。まず基盤のアルミの端をラジオペンチでピアノ線に合わせて曲げる。ピンの締まりぐわいを見ながら丁寧にやること。ピアノ線は長めに切断しておいて、円盤やネジ部分との噛み合いを見ながら長さを調整する。この辺りからは図面と写真を見ながら、工夫しながら作ってください。

## 仁木製作所の飛行機を使う



サイズと重量をチェック中の仁木機群

### 1. 仁木機の実態

仁木機の機体サイズは、胴長50cm以下、主翼スパンは40cm~60cm、機体総重量は17g~23gである。平均的な機体の重量配分は、ペラ6g、胴体7g、主翼6g、水平尾翼1.5gで約20gとなっています。プロペラのダウンスラスト4度、サイドスラスト5度、重心位置55~60%、降下装置は火縄ホップアップ式。仕様はペラ・240 ~ 300 ・米ヒバの削りだし、胴体はカーボンパイプの2本継、主翼と尾翼は1mm角竹ひご+バルサ補強の上、全面多色皺紙張り、パイロンはバルサ製ですがすば



仁木機収納用に製作した譲渡用箱

しく丈夫で、全体に基本をガチッと押さえた作品です。製品はすべて、ほぼ調整済みで当然そのままでも飛びますが、細かく見ると機体のイジリ甲斐もあり、チョコマカと攻めると簡単に一流の競技機に仕上がります。最近の仁木機はさらに軽量化が進んで、完成重量は20gを切り17gクラスも多々見られます。軽いだけなら他に例もありますが、丈夫さと綺麗さは健在で17gの機体でも強風に十分耐えうる強度を持っています。且つ、プロペラ効率(基本設計は石井英夫氏)が向上していて、手巻き100回で取得高度15mと驚嘆すべき性能です。また、空転プロペラの抵抗減少により滑空性能も素晴らしく、ゴムを550回巻くと3分はラクラクと超える性能でしょう。で、公園で遊ぶには、この機体は完全に性能オーバーですから、機体ロストの確率が高く手巻き程度でしか飛ばせません。フル巻きで思い切り楽しむには最低でも1km平方の田んぼや草原が必要でしょう。ガマン、ガマン…。LPと言えどもあくまでもヒコーキらしい美しい姿は必須であり、極端に軽量化し風が吹くと使えないとか、または不気味な姿になるなどは、もっての

……平尾

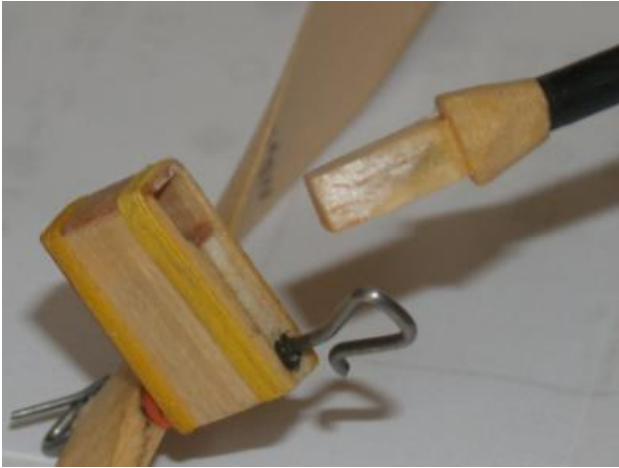
仁木さんは、過去にランチャーズ会報に石井英夫氏の原稿で2回ほど紹介されています。氏は現在も日々LP製作に励んでいて、これまでの製作総数は600機を超えている事と思います。過去にもランチャーズは2回ほど氏製作のLPを贈呈して頂き、会の運営に貢献されています。今回は私の方からの勝手なお願い(と言うより強要かな…)をして、氏がこれまで製作してきた多数のLPを頂いてきました。1昨年までは私はLPにさほど興味がなく、頂いた仁木機を細かく調べたことがありませんでしたが、昨年LP製作本を手伝った経緯もあり、今回は頂いたLPのデータを取り、今後の参考にしようと文にまとめました。



外です。LPと言えども「美しいヒコーキ」であるべきで、美しさを追求しなくなったら模型飛行機ではない。その点、仁木機は美しさをきちんと保持していて、まことに賞賛に値します。好き、スキ…。**模型飛行機は美しいといけない。**

## 2. 仁木LP機の使い方

仁木機は飛行調整もほぼ完了した機体ですので、そのまま使えます。ランチャーズとしては、この機体をLPをそこそこ使いこなせる人々に譲って、



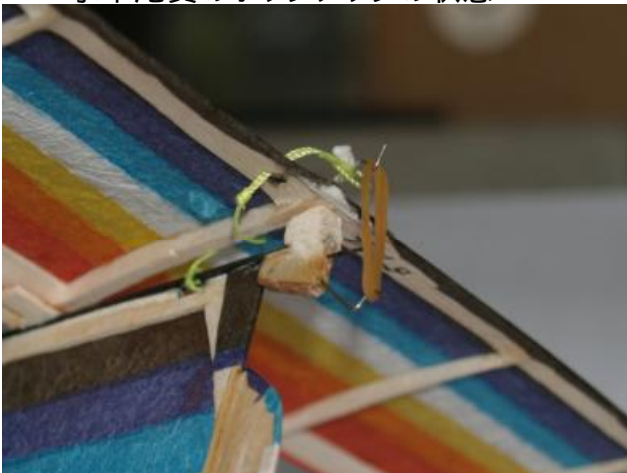
プロペラコメタルと胴体の取付部分

機体製作の参考、及び、競技機を使いこなす練習等に生かして欲しいと思っています。ついでに勝手ながら、各地で模型ヒコーキの普及に苦労している方々に仁木機を功労賞として差し上げることも考えています(仁木さんには相談せず…)。とにかく幅広く多くの人に使って貰い、LPの普及に役立つことを願っています。と言うことで今回は、私も仁木機を1機手元に置くことにしました。手元に置いて楽しむためには回収・いのちであり、公園では降下装置がきちんと使えないと飛ばせません。デサは火縄にしてもクールチューブにしても、使いこなしが問題で不用意に飛ばすことは厳



### 使い方

水平尾翼のホップアップの状態



水平尾翼の滑空位置

禁です。そこで私は簡単に使えるようにデサはクールチューブ装着にしました。クールチューブだと飛ばす場所、風の方角、風の状態等を勘案し落下位置を想定できるので、場所を選んで慎重に発航すれば大丈夫です。さらに機体全体の抵抗を少しでも減らすべく、胴体、主翼尾翼部分のデッパリを研磨し、太めのピアノ線を細くし、全体で0.5gの軽量化に成功しました。しかし、競技で勝つだけならサーマル読みが全てですので、まずは機体が丈夫な事です。となると本当は小細工は不要なのですが。さて、仁木機を買っても、初心者はまず組み立てられません。そこで…。

写真のようにプロペラのコメタル(木製箱形の部分)を胴体の先端の木のデッパリ部分に丁寧に押し込みます。2番目に水平尾翼をセットします。まず胴体に付いているデサ部分の黄色の糸を、水平尾翼に開いた紙の穴の下側から上に通して、輪ツカを水平尾翼上面のピアノ線に通し、黄色の糸が縛り付けてある奥まで入れます。何故こんなややこしい取り付け方か？これはホップアップ時に糸が外れない工夫なのです。次に9番、又は12番の輪ゴムを胴体のフックと水平尾翼前部のフックに引っかけて止めます(2本が望ましい)。この時水平尾翼後部を押さえてみて、ゴムで上下に動く事を確認します。最後に尾翼のピンと胴体後部のピンを9番輪ゴムで止めますが、これが水平尾翼の滑空の位置です。3番目に

主翼を取り付けます。マークの位置を確認してから主翼台の前後の竹ひごに12~14番の輪ゴムで胴体に3、4回巻き付けてしっかり固定します(但し、カチカチに止めると返って壊す)。最後に5gの動力ゴム(3.2mm×6条、S管付)をペラのフックに引っかけて、S管を後部フックにかけます。これで飛



ばず準備完了です。次はゴムを巻く前に、ペラの空転装置の使い方を練習してください。まずペラを手巻きで巻けるように、ペロペラシャフトの穴にペラのピンをかけます(逆にセットするとゴムが巻けない)。そして手巻きで2~30回巻いてペラを回し、その後空転する事を確認してください。

### テスト飛行について

最初はゴムを巻かないで機体を水平に発航します。この場合ピッチングもなく軽く左旋回しながら長く飛んで綺麗に着地するなら合格です。次にゴムを手巻き100回程度巻いて、水平より少し上向きにソッと放します。すると大部分は右旋回で軽く頭を上げて上昇をします。この場合の取得高度は15m程度です。この場合も必ずデサを使うこと。でないと上空視界没の可能性がります。仁木機は大抵この程度までは調整済みで、その後は基本に習って各人各満足がいくように調整してください。

### 飛びぐわい

久しぶりに広い場所に行ったのでフル巻きテストをしてみました。ゴムが堅くて500回は巻けませんでしたが、機体を放すと最初ほぼ垂直に上昇し、仁木機はどちらかというとサイドラストが強い調整ですので後半はクルクル右旋回しながら推定高度80m、ペラが大きいので滑空はそこそこで2分と言ったところでした。ですからフル巻きで飛ばす場合は、広い場所でないと勧められません。調整が完全でない機体でも50m以上は上昇するので、例え1/6の滑空比でも400m角程度の場所が必要ですから、決して油断しないこと。今回仁木機を入手した人々は、これまでのLPとの違いにビックリしています。まず凄まじい上昇に呆気にとられて茫然自失、動力飛行が終わってからようやく自分を取り直して回収に向かいます。こうなると2、3回は飛ばさないと納まりません。たいていの人はこの日もLPを飛ばしてみ、その飛びっぷりを確認して、満足してから次のヒコーキを始めます。これでLPに対する考え方が大変化して、次なる希望はLP大会の開催ですね。

### 3. その他

他人の機体をいじるのは、必ずや何らかの刺激があってイイものです。私の公園用LPではプラペラで良しとしてましたが、仁木機を飛ばしてみ、ここまでプロペラ効率が違うとなると、さすがに方針変更です。早速、材はバルサですが仁木氏の図面のペラを1本削りました。しかしバルサでは強度不足なのと、軽すぎるのでグラスクロスと和紙で補強し、センター部分はカーボン補強をしました。それでも300のペラで2gですから軽いです。その結果頭が軽すぎてバランスがとりにくいので、尾翼を作り直して1g程度軽量化しました。重量としては僅かなことですが、主翼位置を余り動かしたくないので、効果的でした。その結果機体重量は19g代になり、上昇高度の増大と滑空性能の良化で滞空性能は大幅にアップしました。次は檜かヒバで削ってみようと思いますが、日本でバルサ材以外のペラを削る人は10人といないでしょう。

### 千葉弱年ランチャーズの面々



他に仁木機で気の付いて点は、プロペラスト調整のためのノーズ部分(コメタル)やホップアップ部分の細かい細工です。一見大ざっぱですが、それぞれ必要に迫れて工夫して、最低限必要な工作ですので、変更する場合は、少しづつやってください。

この辺りは競技機としては必要不可欠な工作です。次いで、仁木機の紙張りは多色貼りで芸術的ですが、懲りすぎです。これを真似ようとするとうまく行かずコンプレックスを感じますので止めときましょう。各自がそこそこの技術でやれる範囲で十分です。

今回、千葉のグループで、仁木さんの図面によるプロペラ製作講習会をやりました。ところが皆さん、最初から米ヒバで削りたいと

言うのです。しかし、堅木のペラを削る人は日本中で、イヤ世界中でもほんの少数で10人といないのです。ペラ削りはともかくとして、いきなり堅木のペラ削りはシロトには無理ですから、そのことを説明して、まずはバルサのペラを削ることにしました。そして講習会を朝9時から開始、図面からバルサ棒4

面に図面を書くのに30分が過ぎても終わりません。後で考えると、皆さん図面が読めないのも、どこがどうだか解らなかつたらしい。私は元図面やだったので、これは私の不徳のいたすところ、すみませんでした。そのあとも様子を見ているとナイフの使い方が大物向き、ズボッといきそうではぼダメでした。私の技量が平均的だと思っていますが、ペラのような小物を削るには、ナイフの歯を親指で軽く押しながら少しづつ丁寧に削る方法を皆さん知らない様です。もっともヒコーキなんて言うヤクザな物を作るのですから、解らなくて当然かも知れませ+ん。さて、講習会は終わりましたが、この日の3時間でどこまで理解して貰えのか……。しかし、しかし、これからが楽しみです。最後に勝手な注文ですが、この米ヒバのプロペラを有料で大量に供給してくれると有り難いのですが……。

## デンキドリの製作 またまた追加の改良

……平尾

### 1. 主翼センター部分の補強

何度か飛ばしている内に、主翼センター部分の強度不足が解った。そこで、翼中央部分の紙をはがして、3mm角バルサ棒で、リブと桁の間に斜めトラス入れて補強した。片翼2.5gずつの重量増加になったが、ねじり剛性が増して、螺旋上昇が安定した。



コネクターの開口部分、右はコネクターを引出した写真

### 2. 簡単充電の為の改良

何せ、FFモーターブレンは新しい分野なので、徐々に訂正箇所が見つかります。今回は充電をし易くするための改良です。本機が使用している電池は4.8v用なので、電圧が落ちてくると出力がガクッと下がります。しかし、充電するには2ヶ所のカバーを開けコネクターを胴体から出さないと充電が出来ません。これが結構面倒なので充電せずに調整をしていると、パワーが落ちて調整が完了しません。そのため今回、胴体下面を補強しコネクターの取出口を設けて、簡単に充電出来るようにした。これだとコネクターを引っ張り出し簡単に充電が出来ます。防水処理はしていませんが、雨天の場合も、ここにテープを張れば多分大丈夫でしょう。

### 3. プロペラ停止装置の不具合

オートラダーを使ったでの上昇調整は順調で、高度は勝負になる50m程度は上がるようになりました。しかし、モーター前部のギヤに打ってあるペロペラ停止ピンが引っかからなくて、ペラがたたみません。チェックしてみるとピンの引っかかる部分がすり減ってペラが停止しないのです。しかし、面倒な方法はやりたくないで、いまだに簡単な方法を模索しています。現在テスト中の方法は、ピンを引っかける部分に金属板を取り付け、ペラがたたむかどうか様子を見ています。これでダメなら細身のペラに交換する等々悩んでいますので、まだ競技は無理ですね、残念。

# 雑談天国

## 「不思議な国のアリス」の「MAD」にからんで

……平尾

西欧文学は聖書、シェクスピア、それと童話・マザーグース、不思議な国のアリス、星の王子様等の知識がないと面白さが理解出来ません。今回見た3D立体映画「不思議な国のアリス」に触発されて、その中に出てくる「mad」について、しつこく調べてみました。

### 1. イギリスのお茶会

本題に入る前に「アリス」が書かれる前後のイギリスについて調べました。1801年にイギリスが統一されて、やっとグレートブリテンになりました。前世紀に始まった産業革命が終わる頃の1832年にルイス・キャロルが生まれています。1837年にはヴィクトリア女王が即位して、イギリスは大発展期に入ります。但し、1871年のイギリスの平均寿命はなんと26.4才、驚くべきアンバランスの時代！

文学においては16世紀のシェクスピアが有名ですが、イギリス文学の流れを見ると決して素直な時代ではありません。ロビンソン・クルーソーに始まって、ガリバー旅行記、クリスマス・キャロル、シャーロックホームズ、フランケンシュタイン、宇宙戦争等、文学史上新種が溢れ出た時代であり、1830年から1900年の間に、イギリスではなんと4万もの作品が書かれたそうです。こういった時代背景の中で「不思議な国のアリス」が書かれたのです。現在、ロンドンの観光旅行に「アリスとシャーロックホームズ」を訪ねるコースが人気だそうです。はたしてその当時、ルイス・キャロルとコナン・ドイルは出会っていたのでしょうか。さて本題に戻って…

「アリス」の中に「A mad Tea party」の場面があります。これを訳して「キチガイお茶会」等なっていて、且つ、「お茶しました」等の言葉が出てきますが、これには私は大不満です。なぜ…。

イギリスで紅茶が普及したのが1830年頃、「お茶会」が始まったのは1840年代と言われてます。

「アリス」が書かれたのが1862年ですから、キャロルはこのお茶会と言う新文化を茶化して「A mad Tea party」と表現したとも考えられます。この頃、まさにお茶会が始まって間もない時期で「アリスのお茶会」はイギリス王室主催のお茶会とならんで有名なお茶会なのです。このあとイギリスのお茶会は、日本の茶道に匹敵する重要文化となったので、曰く因縁のある行事になのです。

まずお茶会では「紅茶」について一講釈あり、次にお茶を出す順序や、それにそえる手作りクッキー、御菓子やサンドイッチについてもコダワリがあって、お茶会形式と言われるほどのイベントになったのです。ですから最新訳の「アリス」のなかで「お茶しました」とあるのに私あきれ果てました。気ままにお茶を飲むのと、お茶会は全く別物であることを理解していない、また当時の風習も調べないで、言葉遊びのマニア・キャロルの文を自惚れた童話作家が訳するのが間違のもとです。

イギリスのお茶会は家庭によっては、年に2回しか開かないなどその「テーマ」を時間をかけて考え、準備に1週間もかけるものなのです。最初に冷たい紅茶が出て、その後工夫をした様々な紅茶が出て、それに合うサンドイッチ、スコーン、ケーキを添えるのがイギリスのお茶会なのです。その為逆説的に形に囚われすぎないように「お茶会は簡単にやってもいいのですよ」と言う説明すらあるのですから。参考までに、イギリスのティパーティーの写真をごらんに入れましょう。日本でお茶するのとの違いがお解りでしょうか。イギリス人で、そのことをよく知っていたキャロルが、アリス達にするお話としての「A mad Tea party」なのですから。ここでお茶についての講釈を…(www.kochakaden.jp/tips/06/01.htmlからの引用)

紅茶の楽しみ方の中でも特別な「伝統と格式あるアフタヌーン・ティー」では、紅茶の飲み方だけでなく、ティーフーズをいただく作法にもこだわりとマナーがあるようです。例えばティーフーズの種類は、サンドウィッチ、スコーン、ケーキの3種類。食べる順番もサンドウィッチ、スコーン、ケーキの順と決まっています。もしも最初にケーキを食べたときは、サンドウィッチもスコーンも食べてはいけない、と主張するイギリス人も多いとか。また、ティーカップは右手指で、フーズは左手指で持つのが基本マナーなので、お忘れなく。

紅茶のことに詳しい方でも、ティーポットの正しい持ち方をご存じの方は、意外と少ないのではないのでしょうか。英国では昔から、片手でティーポットを持ち、カップに紅茶を注ぐのが正しいマナー。





片手でティーポットを持ち、空いた手の指でフタを押さえることは丁寧で行儀よく見えますが、紅茶の注ぎ方に限ってはマナー違反であることを覚えておきましょう。そしてティーポットを選ぶときも、片手で注いでもフタが落ちないように、フタの内側にストッパーが付いたものを選ぶのを忘れなく。

気軽に紅茶を飲むティーパーティーでは、とりえず細かなルールは忘れて、好きなお菓子を用意すればOKです。とは言え、ショートブレッド、スコーン、マフィンなど英国風のお菓子がテーブルに並べば、雰囲気も盛り上がることでしょう。スコーンやマフィンには、たっぷりのジャム、生クリーム、バター、シロップを添えることを忘れなく。

日本ではミルクティーと言えばどこでも誰にでも通じますが、イギリスではちょっと事情が違います。英語でのミルクティーの正式な名前は「Tea with Milk」、または「White Tea」という伝統的な呼び方もあります。このWhiteとは、ストレートで飲む紅茶の「Black Tea」に対比した表現なのです。

イギリスの伝統を受け継ぐブランドのティーカップには、外側だけでなく内側にも花模様が描かれているものが多いようです。このティーカップ内側にある花模様は、単なるデザインではなく、大切な役目があるのです。それは、紅茶を注

ぐときの適量を示すこと。カップ容量の約2/3の位置に花柄があるのが、由緒正しいティーカップの証といえるかもしれません。

ティーカップとコーヒーカップの違いは、まずカップの形状です。つまり広さと深さが微妙に異なり、ティーカップは紅茶の香りが広がりやすく同時に紅茶の色が見やすい、広く浅い形をしています。

マグカップのように高さがあり口径が狭いものは、紅茶ならではの色と香りを楽しむには不向きなのです。以上(www.kochakaden.jp/tips/06/01.htmlからの引用)

イギリスにはお茶の入れ方に関してMBT、MATがある。Milk before Tea /カップにお茶を入れる前にミルクを注ぐか、Milk after Tea /カップにお茶を入れてからミルクを注ぐかということです。

ある文献によるとメイドさんがいないお宅は、カップに最初にミルクを注ぎ、メイドさんがいるお宅はお茶を先に注いだそうです。メイドさんがいないと、ティーカップをお茶を楽しんだ後に自分で洗わなくてはなりません。そんなお宅は茶渋がカップにつくのを防ぐためにミルクを先に注いだそうです。

メイドさんがいるお宅はそんなことはお構いなしに最初にたっぷりお茶を注いで飲んでいたそう



です。このお話の真偽は定かではありませんが、イギリスではミルクティーもよく飲まれます。私の友人は先にミルクを入れた方が紅茶の苦味がでないとMBT派です。「家にはDish washerがあるから、先にたっぷりお茶を注ぐわよ」と言う友人もいました。あなたは、MBT？MAT？どちらですか。えっ、ストレート？ 酸が入っているからレモンティーなんて！？こんな話題でお茶を飲むのも楽しいです。

以上は(イギリスお茶時間 Chotchat Cafe = seaglass.jugem.jp)からの引用

「お茶会」とは日本紅茶協会の定義では、「主婦(女主人)が主催する『午後のお茶会』のことで、それは『社交』を目的に特定日の午後4時頃始まるとも優雅で豪華なティータイム」と認識されるものです。今では家庭でそのようにカチカチのティータイムを執り行うことはほぼありません。代わりにホテルやティールームが当時の雰囲気をも今に伝えてくれています。皆さんもよくご存知の三段トレーに盛られた食べ物の数々は、おしゃべりをしながら紅茶と食べ物を交互に口に運ぶために最良で完璧な形を呈しています。それは食べ心地良く、会話を遮らない工夫に満ちた食の芸術とも言えます。簡単に言えばしょっぱいものから甘いものへ食べ進みます。下段から上段へ向かうのです。決して後戻りはなさいませぬようご注意下さい。食べ放題と違うのはこの点ですね。さて下段から塩味のフィンガーサンドイッチ、中段にスコーン、上段に凝った繊細な小ぶりのタルト・エクレア・チュイール・焼き菓子等が盛り付けられるのが一般的です。食べ物と紅茶は「たっぷり」提供するのがアフタヌーンティーですから、これらは基本的にいくらでも食べることも、飲むことが出来ます。”このようなサービスを存分に受けるためにも後戻りは禁物です”。(阿部耕也の紅茶日記)からの引用)

このような事は常識としての「アリス」の画面なのです。また、キャロルは異常なほど言葉にこだわる質ですから、彼の言葉をそのまま訳して「きちがいお茶会」としてしまうと、まず外れです。そもそも人間、三月うさぎとねずみがお茶会をやるわけがないし、当然この登場者に様々な風刺がこめてある筈です。その上に、たった1人参加している人間がシルクハットをかぶって正装しているのですから、ますます変なのです。さらに、ちゃんとお茶会の準備がされているのに、たった3人(匹?)が角にかたまって座っているだけ、そこに突然アリスが参加し最初にワイン(お茶会に酒は御法度)を勧められる？これも変なのですし、このお茶会には誕生会とか茶器のお披露目のようなテーマも見あたりません。また、お茶会は会話が「命」なのに話もトンチンカンで面白くない。そこでこの話を聞いていた少女達が口々に「A mad Tea party」と叫んだのではないのでしょうか。

## 2. 情報検索のわな

インターネットの時代になり情報検索は格段に楽になりました。しかし、コンピューターを使うのは人間であり、個々の検索能力の差がそのまま出ます。ですから本人がとことん納得するまで、根気よく検索



「アリス」の帽子屋

しないと、全く異なった結論が出る事もすらあります。

「アリス」の中で有名な「いかれ帽子屋」は、まず「A mad tea party」・おかしなお茶会」のシーンに出てきます。しかし、原文ではどこにも「mad hatter」の言葉はなく「hatter 帽子屋」なのですが…。アリスが書かれた当時、よく使われる言葉として「mad as a hatter」、「帽子屋の様にいかれている」があったらしい。もう1つ、キャロルがいたオクスフォード大学のクライスト・チャーチの用務員テオフィルス・カーターが帽子屋のモデルらしい。カーターは後に家具店を開業し、常にシルクハットを被って自分の店の玄関の前に立つという習慣から「帽子屋(the Hatter)」の名で知られるようになったと言う。しかし、「アリス」の中にはなぜ「帽子屋の様にいかれている」のかの説明はありません。しかし、現在のアリス絡みの定説では、当時の帽子屋はフェルトの加工に水銀蒸気を使ったので、しだいに脳を冒されて「いかれ帽子屋」の言葉が生まれたとされています。と言うことで「アリスのいかれ帽子屋」で検索すると、100%水銀説で説明されています。しかし、フェルト帽子を作るどの過程で水銀が必要だったのか、それと、その後危険な水銀は何の材料に変わったのか等どこにも著述がありません。これはどうもおかしい。

と言っているのはフェルトは金属ではないので水銀を使う理由がないのです。フェルトの加工には「脱

脂」「脱色」「接着」「成型」等考えられますが、「脱脂」には融剤(アルコール、シンナー等)、「脱色」は灰や晒し粉、「接着」には澱粉、樹脂、「成型」には高温高压と縫製等が常識で、フェルトに金属加工用の金属アマルガムを使うことはあり得ません。そこでフェルト業界の情報を調べて見ましたが、今も昔もフェルト加工に水銀を使っていないとあります。さらに目線を変えて帽子業界の項を調べると、当時は革帽子製作が盛んだったので、皮を鞣すのに古来(現在も)酸化クロム液を使いました。この液を使用後焼却処理すると猛毒の6価クロムになり、それによって精神を侵された帽子が多かったとの説が記載されています。最後のとどめとして、ウィキペディアの「水銀」の項目を調べると、アリスの「いかれ帽子屋」の水銀説を俗説であるとして否定しています。にもかかわらず、日本では学术论文にまで、今でも水銀中毒の例として、水俣病と並んでアリスの「いかれ帽子屋」を上げています。このデタラメさは余りにもひどい！！簡単にチェック出来るのにそれもやらないで、これでも学者??

もう一つ、インターネット上の偽情報を蔓延させる元として、自分のホームページに他人の意見をドコピーして載せる意味不明のページがある。しかもコピーしたデータの元を載せていません。

何故こんな事をやるのか全く意味不明ですが、この手のホームページが様々な分野にはびこっているのが問題です。このままではデタラメ情報がドンドン増えるのではないのでしょうか。

この問題でも解るように、すべての疑問が解決されないうちに検索を打ち切ってはダメです。インターネット検索は簡単なのですから、トコトン調べないとダメ。情報は多数決ではないし、いい加減な説に惑わされないで必ず真相の奥底を覗いて確認して欲しいものです。活!!!

## ヒコーキ読本あれこれ

.....stupidcat

いきなり私事で恐縮だが、筆者が子供の頃なりたかった職業はヒコーキの設計技師だった。パイロットを夢見る子供は多いが、『飛びたがる者』より『飛ばしたがる者』を目指す子供は少なかったと思う。残念ながら、夢は夢で終わってしまったが、今でも模型ヒコーキと縁が切れないのは、そんな子供時代を引きずっているのかもしれない。とりあえずここに紹介するのは、ヒコーキに関する本の書評みたいなモノで、わりあい最近入手したものだ。

『トコトンやさしい飛行機の本』紀尾井町飛行機研究会編著(日刊工業新聞社)

『トコトンやさしい航空工学』高木雄一・小塚龍馬・松島丈弘・谷村康行共著(日刊工業新聞社)

いずれも「知りたいことがよくわかる・今日からモノ知りシリーズ」というキャッチフレーズ付きのシリーズ本で、ちょっと気の利いた中学生ならすらすら読めるレベルの内容だ。

は、単簡な飛行機の構造から始まり、航空前夜のさまざまな試行錯誤の時代を経て、現代から近未来のヒコーキのことが、順序良く解説されている。とくにライト兄弟以前の黎明期を取り上げた部分は面白い。“ケーリー卿”や“ペノー”、“二ノ宮忠八”までちゃんと紹介されているのがうれしい。

ただし、航空機が脅威的に発達した第一次世界大戦あたりの記述が乏しいのが寂しい。この辺りに詳しいのは、故佐貫亦男先生の『飛行機の再発見』なのだが、現在絶版になっているようだ。その代わりと言ってはなんだが、48葉機を実験した愉快的な英国人の話も載っている。目新しいのは、わが国での初飛行を日野大尉のグラード単葉としていることだ。軍の公式記録には徳川大尉のアンリ・ファルマン機なのだが、実際には日野大尉の方が先に飛んでいる事実を紹介している。

は、現行のヒコーキ全般の説明が主で、マニアならたいがいの事は知っている内容だが、改めて読んでみると「なるほどナー」と思わせる事項が結構ある。例えば、翼型についても単簡にはあるが、ちゃんとシロートにも理解できる説明がされている。巻末にヘリコプターの項目があり、添え物的でちょっと不満だが、まあ仕方ないだろう。

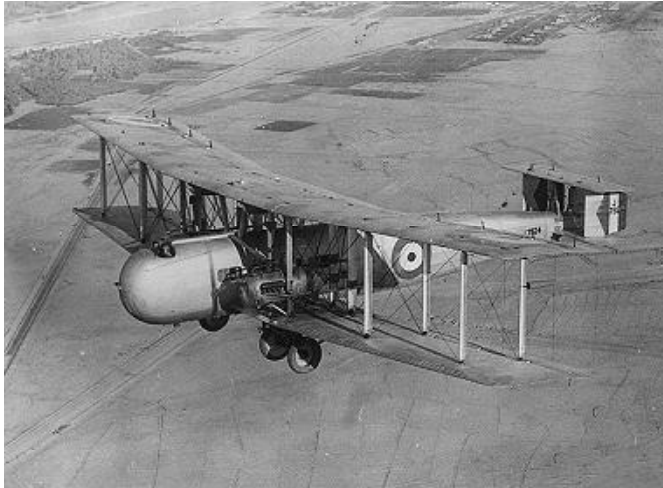
と違って、模型ヒコーキとは縁の薄い内容だが、同じヒコーキだから興味のある人にはおススメ。空港に行くのが、もっと楽しくなるだろうと思わせる内容だ。

『人はなぜ飛びたがるのかー大空に挑んだ世界の“飛び屋”たちー』末澤芳文著(光人社刊)

ヒコーキの歴史本は数あれど、稲垣足穂の『ライト兄弟に始まる』(残念ながら、現在絶版)を超えるモノは無いと思っている。本書は、もう一寸一般向きに書かれた航空史で、ヒコーキ大好き人間なら一読の価値がある。話はダヴィンチあたりから始まる一般的な構成だ。水上機の項でちょっと触れられている“ペノー”については、もう少し詳細に書いてほしかった。(http://aerostories.free.fr/precurs



eurs/penaud/page2.htmlに詳しい。英文)なぜなら、かのライト兄弟が「飛ぶモノ」に興味を抱いたのが、ペノーのバットと呼ばれた模型ヒコーキだったと思われるからだ。



もうひとつ、大西洋初横断をリンドバーグとせず、正しくアルコック/ブラウンの二人が乗ったヴィッカーズ・ヴィミーとしていることは、安易に前者の説を取りがちな一般のジャーナリズムと一線を画している。リンドバーグがあれだけ騒がれたのは、ニューヨーク・パリ間の飛行に莫大な賞金がかかっていたからで、当時はその手の賞金が幾多あった。本書は、「飛ばしたい派」と「飛びたい派」の両方が適度でないまぜになっているのが、楽しめると思う。どうしても読むべき本とは言わないが、本棚の隅に置いて暇なときにページをくってみれば、新しい発見がありそうだ。ロンドンのヒースロー

### ヴィッカーズ・ヴィミー

空港にアルコック/ブラウンの銅像が在るなんて、不幸にして筆者は本書で初めて知った。

本書の後半は、「飛びたい派」それも勇敢な女性飛行家に行を割いている。例えばアメリカ・イヤハートのことは、ずいぶんと丁寧に紹介しているのは、本書のタイトルにふさわしい。彼女こそ、初の大西洋単独横断を成し遂げた最初の女性パイロットなのだが、未だ女性差別の厳しかった時代には、大いに注目されたようだ。また最初はアメリカの独壇場だったこの世界で、英国の女性たちの活躍もたっぷり盛り込んである。最後にちょっと残念なのが、表紙のイラストで、書いた方はあまりヒコーキの構造をご存知無いらしいことだ。

### 『零式艦上戦闘機』清水政彦著(新潮選書)

帯に「新説搭載・俗論撃墜/まことしやかに語られてきた「零戦神話をことごとく覆す」半藤一利氏・これまでになかった視点」とある。「飛ばしたがる派」の筆者としては、ゼロ戦の新しい技術的な側面が発見されたかと、期待して読んでみた。ところが・・・である。前半はゼロ戦がいかに凡庸な機体として誕生したかに終始し、後半は日本海軍の負け戦の列記で、技術的に面白い記述はほとんど無いに等しい。佐貫亦男先生が、「堀越次郎さんにゼロ戦の話をさせようとする、いつも 96 艦戦の話になる」と書いておられたが、あの時代のゼロ戦は当時の日本の技術力からすれば画期的な機体だったのだ。著者が文系の人らしく、例えば主翼のねじり下げについてもまったく触られていない。

設計者の堀越次郎氏、撃墜王の坂井三郎氏が亡くなったあとの、これは「後出しジャンケン」のように思われてならないのは筆者だけではあるまい。1000馬力のエンジンで、2000馬力の敵機と対峙しなくてはならなかったあの時代のパイロットたちは、脅威的な航続距離を生かした壮大な作戦を展開したのだ。別段「神話」視する必要はないが、少なくとも戦争初期には無敵だった事実を否定してはならないと思う。特に坂井三郎氏や柳田邦男氏の著書を読むと、その感が深くなる。

以上 ~ は実機に関する書籍で、模型ヒコーキには直接の関係は無い。揚力尾翼なんて発想は、実機には無関係なのだが、実は最新の旅客機にはそれに近い技術が導入されている。まあ、その辺のところは次回のお楽しみに。なお、紹介した4冊は現在でも入手可能な筈で、筆者はセブンイレブンのネット販売(<http://www.7netshopping.jp/books/>)で買った。本屋よりセブンイレブンの方が近い方にはおススメだ。

### 『タバコ狩り』室井尚著(平凡社新書)

ついで、と言うかオマケと言うか、題名につられて買ってしまった。ヒコーキ屋にはスモーカーが結構いらっしゃるのだが、皆さんマナーを守って吸っておられるようだ。本書の内容は、いたって冷静に愛煙家を擁護し、例えばK県のM知事のようなヒステリックな嫌煙者に議論の争点を提示しており、WHO等のデータのうさんくささにも、疑問を投げかけている。喫煙者にも、嫌煙家にも一度は読んでいただきたい一冊である。中でも著者は、嫌煙権の行き過ぎに不気味なものを感じていると述べているが、。WHOの次の標的はなんとアルコール飲料なのだ。これにはヒコーキ屋ならずとも「不気味さ」を覚えるに違いないと思うのだが、如何？

ちなみに、著者は最近パイプに魅力を感じておられるとか……。焼魚のおこげを食べると癌になる、という説を発表した科学者が昔いたが、それが本当なら日本人などどっくの昔に絶滅している筈だし、タバコ大好きのかの大国が「一人っ子政策」など打ち出すワケが無いではないか。

## 編集雑記

……平尾

\* そろそろ死ぬ準備をと思って、過去に貰ったカップやトロフィーを箱から出して処分した。まずは、昔もらったプラスチックのデカイトロフィーのボルトナットを外してバラし、小型の物も外せる物は外した。それでも結構な量で袋3杯ほどになった。また、トロフィーを入れていた箱が沢山残ったが、これはLPや他の小型のヒコーキ入れにしようと考えている。バラしながら見てみると、私の成績が良かったのは80年代から1990年の前半までで、この間毎年何かしら貰っていた。と言うのもF1B、R級、G級、HLGと何でも、何処の大会にでも出ていたからである。特に二宮賞大会にはお世話になった。それに比べると湘南大会はダメで、6回くらいしか賞を貰っていない。これまでの受賞はランチャーズカップは別にして40回超あるが、比率を見るとHLGとその他がほぼ半々である。HLGについては現在も受賞継続中であるが、これも死ぬとパタンと突然終わるので、それまでは、やらしくネチネチと、しつこく頑張るぞ。

\* 夏になると小型機が元気になる。特に7、8月は公園での記録会になるので小型HLG(ちびた、36cmクラス等)を引っ張り出し、みんなこっそりと賞を狙って練習だ。しかも小型機は大型機とは違う筋肉を使うので、いきなり投げても勝てないのだ。それと小型機は性能がプアーなので、わずかな工夫が勝敗に効く。+1~3秒の性能アップが勝負なのでこれが又楽しい。この辺りにロートルが付け入る隙があるのだ。当方、虎視眈々と小型HLGの整備に余念がないのだが、さて、この結果がどう出ますか。今から楽しみだ……。しかし、グリーンパークの芝養生はいつ終わるのだ…。

\* 小惑星探査機「はやぶさ」は、2003年5月地球を出発し、2005年11月小惑星「いとかわ」に着陸、そして見本を採集して離陸に成功し出発から7年をかけて地球に帰ってくる。そして6月13日午後11時頃オーストラリア・ウメラ砂漠の2km平方の位置に無事着陸した。

月以外の天体に着陸した惑星探査機が返ってくるのは、もちろん日本が世界初である。しかもこの探査機は自律機能(目的を探索して自動操縦で向かう等)もあり、イオンエンジンを4万時間も駆動したという。何と言う快挙…。しかし、アメリカはともかくとしてソヴィエトも中国も、日本の科学力を大々的には認めないだろうな。しかし、日本はヤルのだ。この惑星探査機は何度も故障したのに、遠隔操縦で何回も修理に成功したという。これは探査機に様々な工夫を織り込んでおいた組織のいい加減さの勝利であり、素晴らしい。今の科学技術では、はるか遠くの物にこんな事が出来るんですね、スゴイ。宇宙開発費、米国の予算1.7兆円に比べて日本の予算はわずか1800億円です。

事業仕分けじゃないが、科学技術では「2番目ではダメなんですか」等と言ったら、世界でドンドン遅れることは間違いない。こんな解りきったことなのに、アホめ、バカめ。

\* 老人になると自分1人の時に何を食べるかは、重大問題である。千葉のLPグループは春頃から「どこのレトルトカレーが美味しいか」と姦しい。「銀座カレー」が美味しいと言うので調べると、240円売りなのが158円であった。買いだと思っていると、さらに下がって105円、焦って3種類を2ヶづつ購入。しかし、そのなかで美味かったのは「中辛」、他の「キーマ」と「ライト」はダメでした。

これに味をしめて他メーカーのカレーにも手を出した。ハウスの漢字の「カレー屋カレー」が78円ので出たので即買い、で味は並だがまずは合格。ヒョウチクはいろいろ出しているが「神戸ポークカレー」はダメ。その他ビーフやチキンはまだ食べていないのでワカラン。これまでカレーはわずかししか試していないが、値段が100円前後で売っている場合は買いである。こいつ、ご飯にタラタラッとかけて電子チンすればOKなので、暑い夏、面倒くさがり屋にはお勧めだ。

その他の食品では、味の素の冷凍品である「ギョーザ」と「えびピラフ」は合格、ニチレイの「えびピラフ」も合格、但し、いずれも4~5割引の時買う事。

追記 会報はこれまでもプリントの程度が悪かったので、今回途中から(12頁から)印刷方法を「きれい」にしてみた。スピードはやたらと遅くなるが画像の鮮明度が上がった。次回からは全て「きれい」でやるのでご期待あれ。